

2023年1月16日月曜日より頭痛専門外来を始めます。毎週月曜日、午前9時から12時まで、午後3時から6時まで受け付けます。対象となる患者さんは、頭痛で悩んでいる方です。他院にて治療中の患者さんは、治療歴の記載とお薬手帳を持参してください。

頭痛とは？

頭痛には、一次性頭痛と二次性頭痛があり、一次性頭痛は①片頭痛、②緊張型頭痛、③三叉神経・自律神経性頭痛（群発頭痛）で、二次性頭痛は何らかの頭蓋内外病変により惹き起こされる頭痛です。二次性頭痛の種類には、①頭部外傷・傷害による頭痛、②頭頸部血管障害による頭痛、③非血管性頭蓋内疾患による頭痛、④物質又はその離脱による頭痛、⑤感染症による頭痛、⑥*ホメオスターシス障害による頭痛、⑦頭蓋骨、頸、眼、耳、鼻、副鼻腔、歯、口あるいはその他の顔面・頸部の構成組織の障害による頭痛または顔面痛、⑧精神疾患による頭痛と多岐にわたっています。このうち緊急手術や緊急入院の対象となる疾患は、クモ膜下出血、脳出血、動脈解離などの脳血管疾患、脳腫瘍、水頭症、急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、慢性硬膜下血腫、髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、などです。一次性頭痛は、外来診療の中で薬物治療を行います。片頭痛の患者さんでは、漢方薬、トリプタン製剤、CGRP 関連抗体薬など組み合わせて投薬します。一方で、薬剤の使用過多による頭痛（薬物乱用頭痛、MOH=medication-overuse headache）が問題となっています。トリプタン製剤を一月に10回以上服用しなければならない例では、MOHの可能性ががあります。その様な例では、注射によるCGRP 関連抗体薬を用いることによって、トリプタン製剤やロキソニン、イブプロフェン、SG 顆粒などのNSAIDsの服用回数を減らすことができます。患者さんによって、頭痛の性質、強さなどがまちまちですので、個々のケースに適した治療が必要です。従って、頭痛の治療のためには、何歳ごろから始まって、どの様な時にひどくなるか、涙が出たり、視野にチカチカした光が見えたり、視野が狭くなったり、吐き気や嘔吐などが起こるかどうかが、の病歴の聴取が大切です。また、これまでどこの医療機関でどのような治療を受けて来たのかという治療歴もお知らせください。二次性頭痛の診断のために、頭部CTやMRI検査を受けている場合は、画像所見と診療情報提供書をお持ちになれば役立ちます。また、頭痛があっても、頭の画像検査を受けたことのない方は、脳ドックをお勧めします。（*気圧の変化、高血圧、腎臓透析、貧血、甲状腺機能低下、絶食、心臓疾患など）